名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

Campus Planning and Management Office
+
Facilities Management Department

共創の場を実現するキャンパス・施設の計画
～名古屋大学の現場からみた視点

今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する
調査研究協力者会議

2024.07.18

名古屋大学 施設・環境計画推進室
恒川 和久

共創の場を実現するキャンパス・施設の計画
～名古屋大学の現場からみた視点

- 「共創の場」づくりの視点　～取り組みのポイントから

  名古屋大学キャンパスマスタープラン2022

- 「共創の場」のデザインとマネジメント

  個々の共創の場の取り組み事例

- 多様なステークホルダーによる「共創の場」づくり

  実現に向けた施設部署や中間支援組織の役割

イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実現に向けて

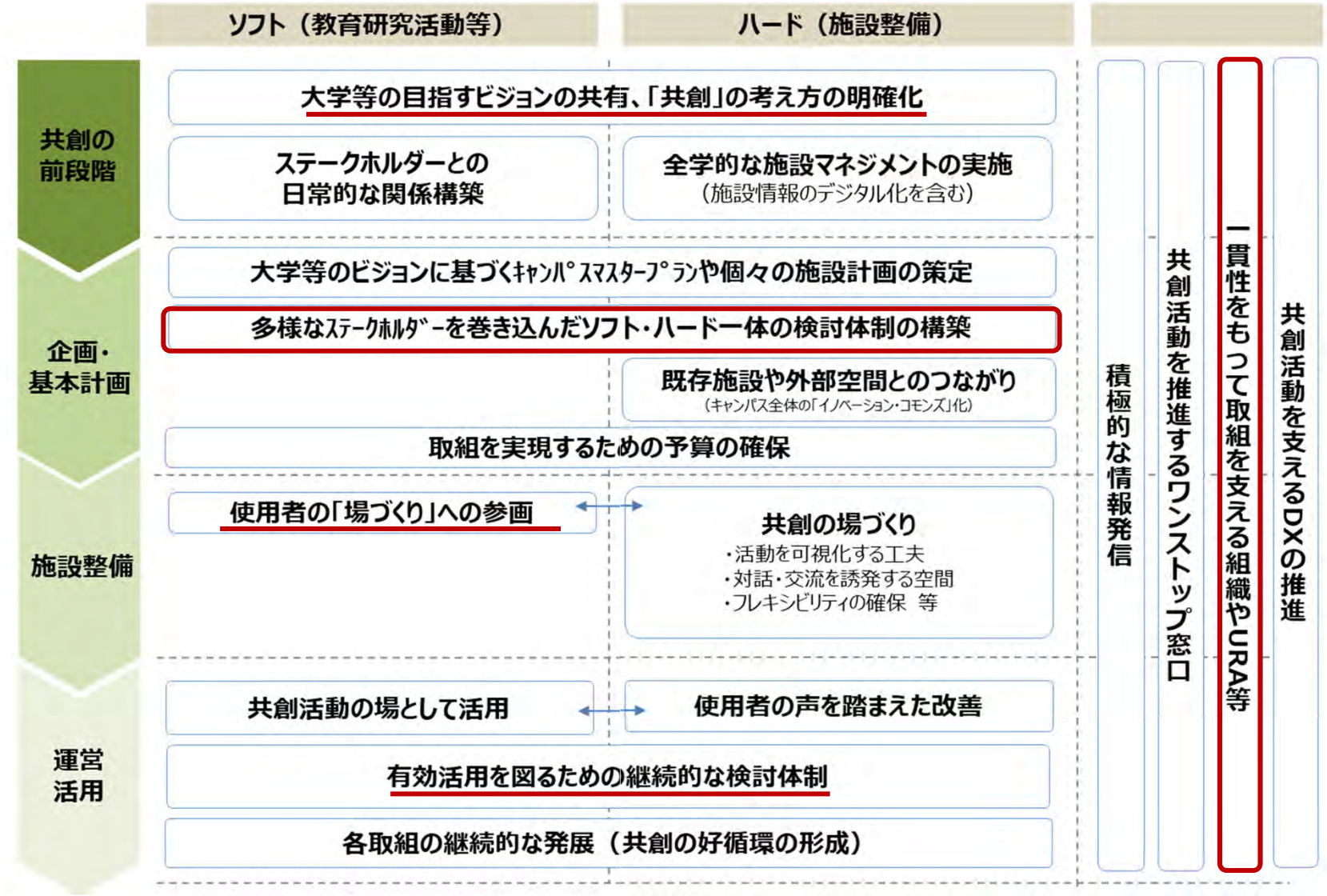
４つのカテゴリー

- 世界をリードする最先端研究の推進
- 産業界との共創による地域産業振興等への貢献
- 社会課題の解決への貢献
- 地方公共団体や教育機関等との共創による人材育成等の推進

＋

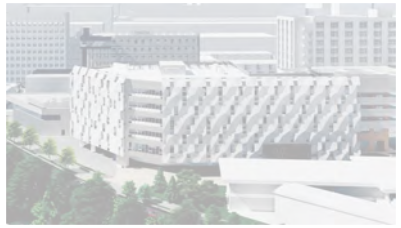
- デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備

イノベーションコモンズ実現のための取り組みのポイント



国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議　2022年10月

名古屋大学キャンパスマスタープラン2022と共創拠点



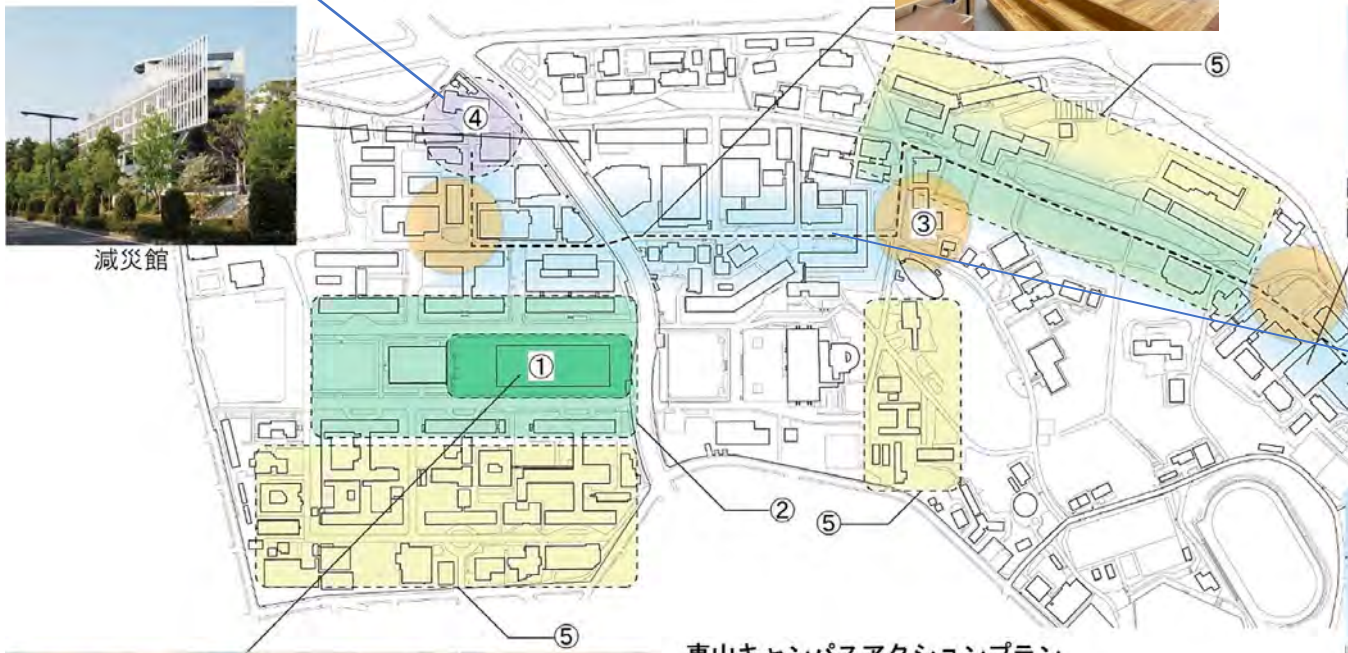
LYKEION
卓越研究拠点
糖鎖生命コア研究所

Idea Stoa　@NIC

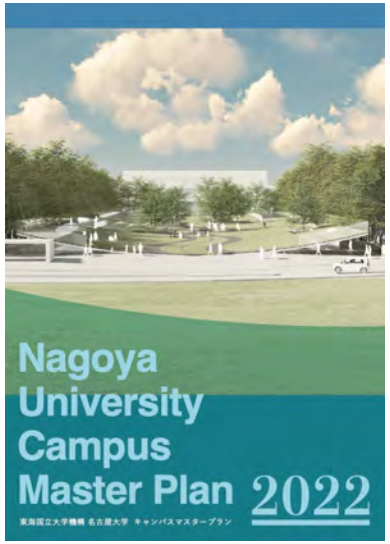
減災館

C-TEFs

TOIC



C-TECs



東海機構プラットフォーム（仮称）

東山キャンパスアクションプラン
①東海機構プラットフォームの実現
②グリーンベルト周辺への教育スペース再編
③グローバル最先端研究拠点と産学連携研究拠点の連携
④工学部７号館北側地区での学生課外活動拠点の再生
⑤文教地区や本部地区、農学部地区の再生計画の立案
⑥屋外環境の整備

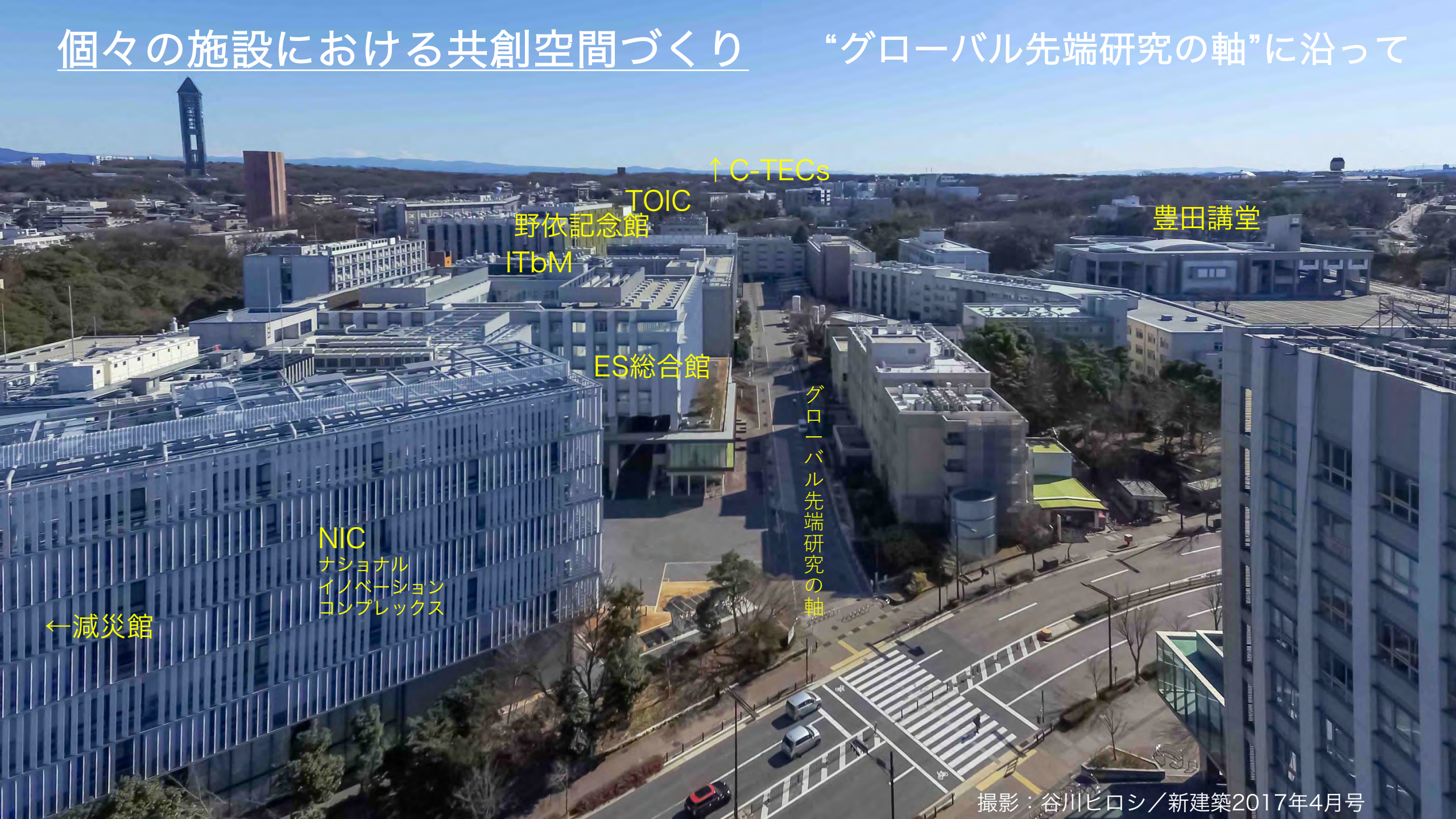
キャンパス全体を
ソフト・ハード一体となった「コモンズ（共創拠点）」へ転換していく

［東海国立大学機構のミッション・ビジョン・バリュー］

“Make New Standards for The Public”を
ミッションに掲げ、「知とイノベーションのコモンズ」として、
地域と人類社会の課題解決への貢献を目指します。

個々の施設における共創空間づくり

“グローバル先端研究の軸”に沿って



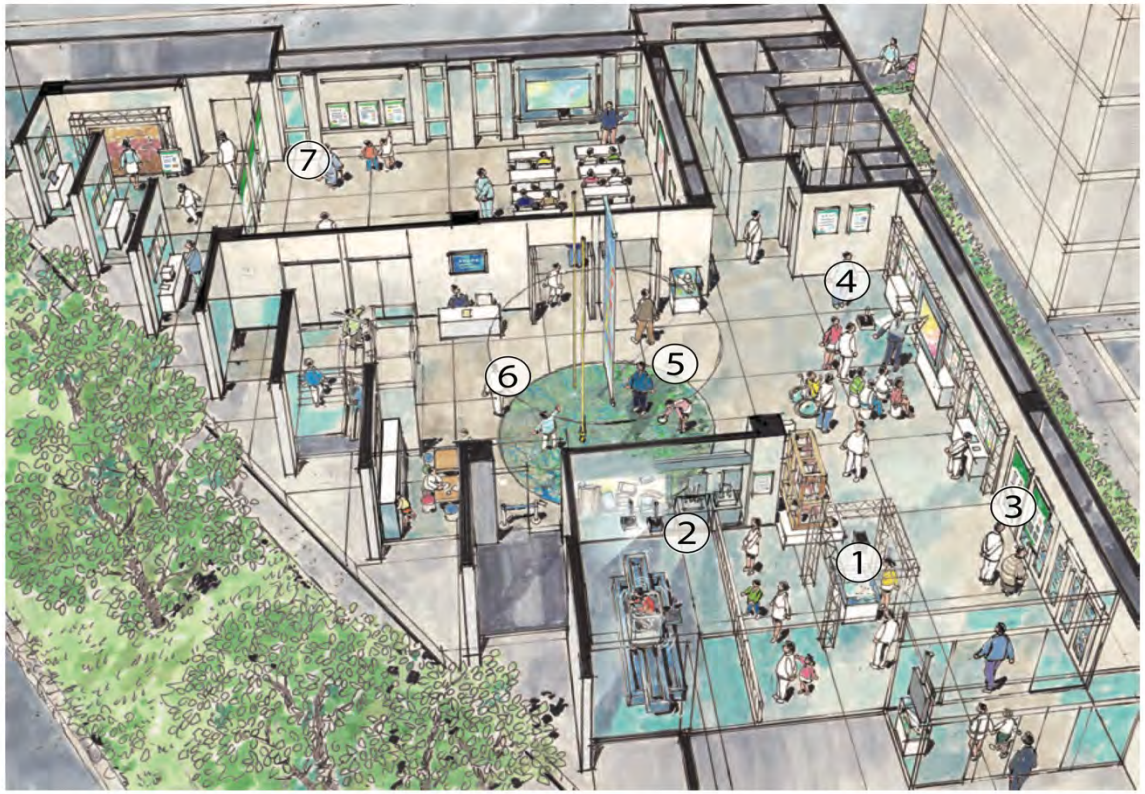
撮影：谷川ヒロシ／新建築2017年4月号

減災館　減災連携研究センター　2014

東海地域の災害対応拠点として平時/非常時の機能転換を図る
産官学民の連携･協働の拠点　体験型リビング･ラボ

⑦減災ホール

清洲城跡からみつかった
天正地震（1586年）による
液状化の痕跡です



ロープにぶらさがって
減災館の揺れの周期
を体験してみよう！

⑥減災ギャラリー

空からみた名古屋と周辺の
町。大きなルーペでみると
何がみつかるかな？

ギャラリートーク

減災館の教員による
こだわりの減災と展示のはなし
毎日13:30～開催！

ギャラリートークの内容は、ホームページで
ご確認ください（ギャラリートーク予定表を
ダウンロードできます）

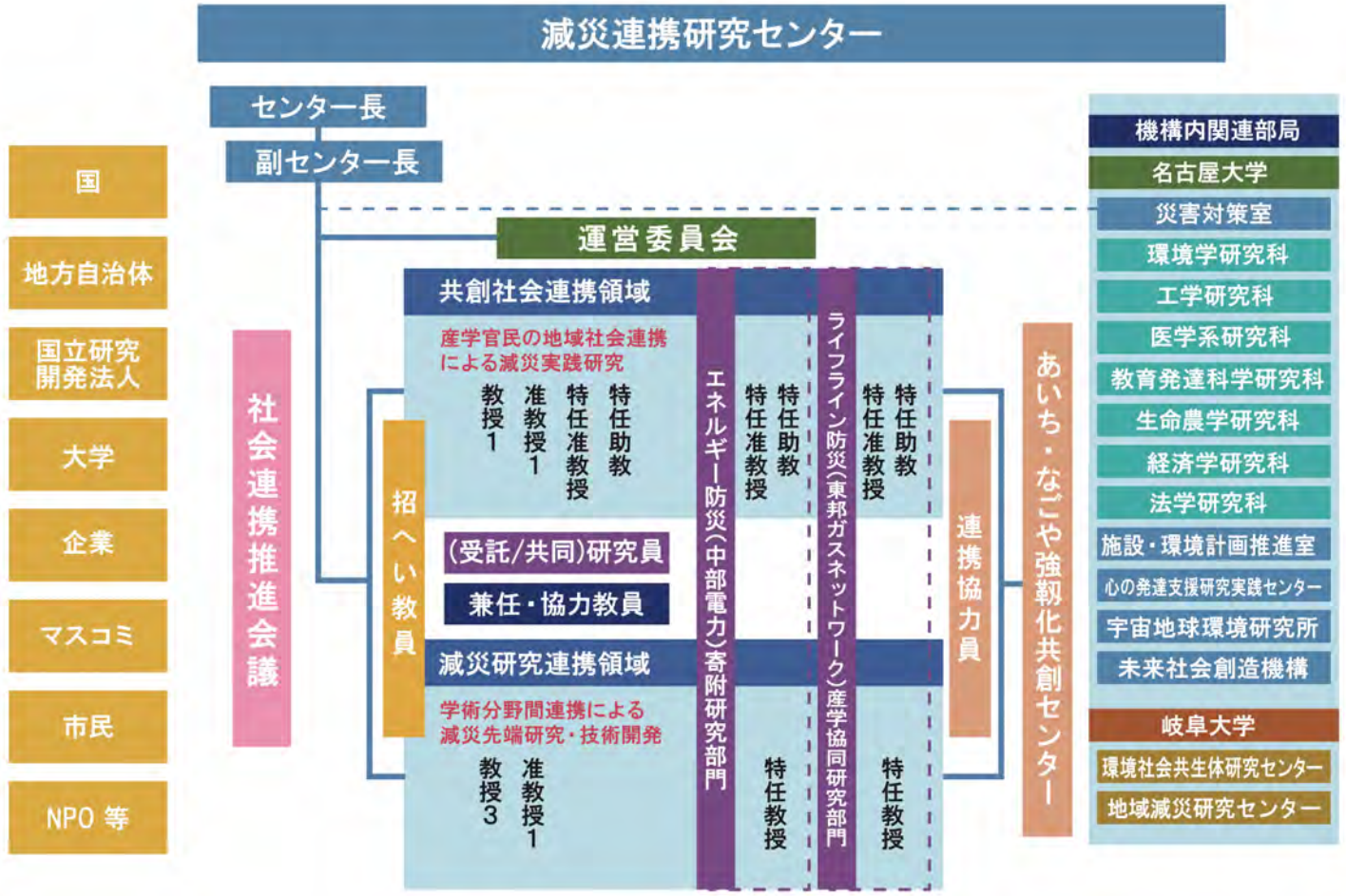
②BiCURI

大地震が起こったときの
揺れと建物の中の様子を
みることができます

①3Dビジュアライズ

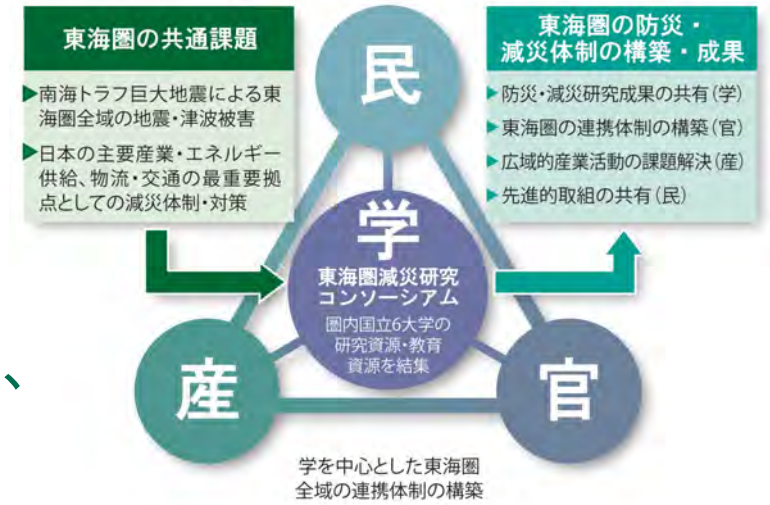
東海地方の地理的特徴を
みることができます

減災館　減災連携研究センター　2014



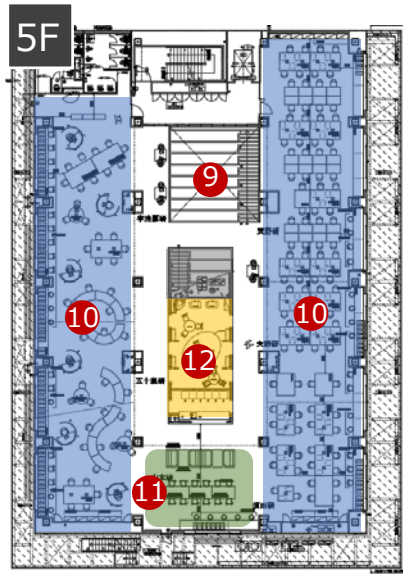
● 多様な人材育成プロジェクト

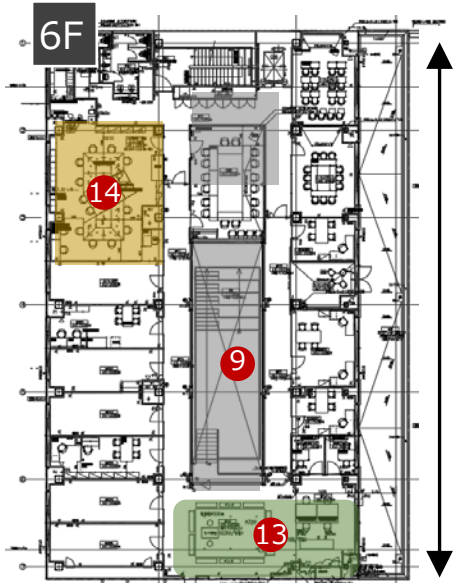
● 東海圏減災研究コンソーシアム



最先端の減災研究に基づいて、地域全体のさまざまな連携を深め、
減災実現モデルを創出する

C-TECs エネルギー変換エレクトロニクス研究館 2019



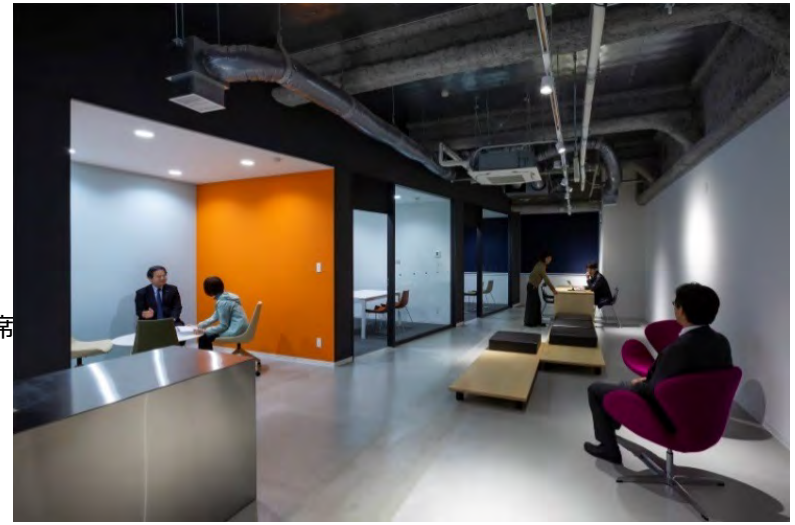


吹抜けと大階段でつながる“ナレッジコモンズ“

テーブルにも床にもなる使い方自由自在の大舞台

GaN研究戦略室(事務室)
全員で異型大テーブルを囲んだ執務席

新進気鋭のアーティストによる壁画



学生・教員・企業が交わる共用スペース

©三森弘

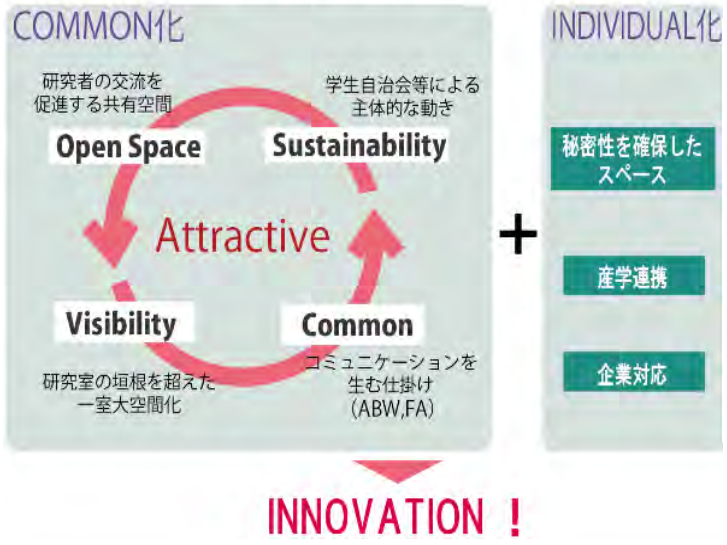
C-TECs エネルギー変換エレクトロニクス研究館 2019

天野浩先生が率いる窒化ガリウムをつかったエネルギー変換研究の最先端拠点

研究環境構築における課題と具体的解決策：**居住者自身による居住者のための空間づくり**

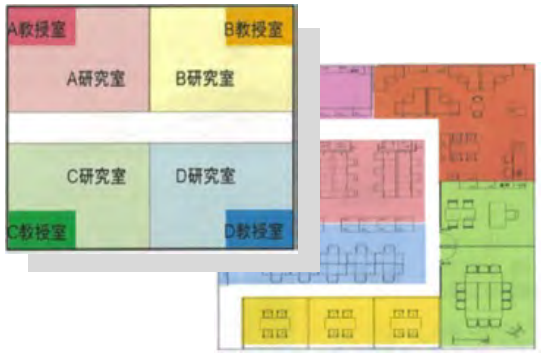
コンセプト１：
共創を生む仕掛け

インタラクティブを生む仕掛け



多様な可変性のある空間

コンセプト２：
セクショナリズムの超克



研究室間の陣取り合戦

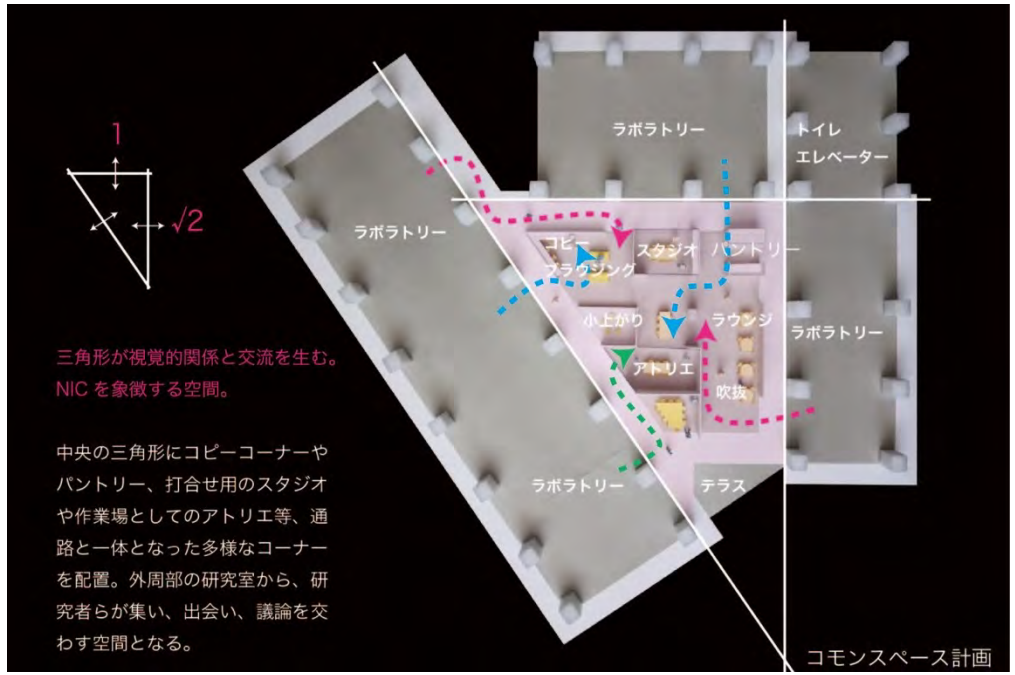
研究室間の垣根を越えた
一室**大空間化**

コンセプト３：
入居者による“空間の経験・共有化”

内発的動機付け

©三森弘

NIC　National Innovation Complex　2015

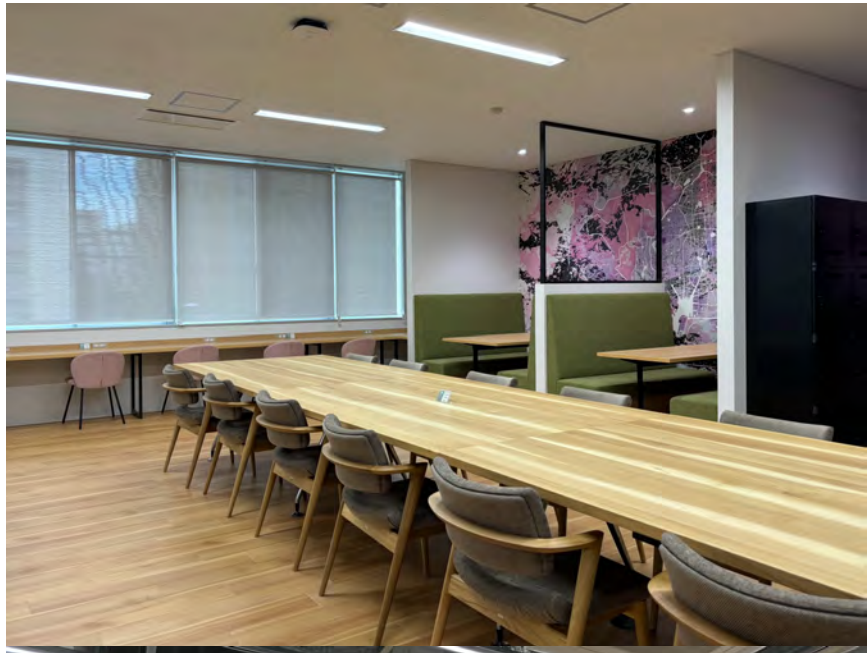


IDEA STOA（共創スタジオ）@NIC　2022

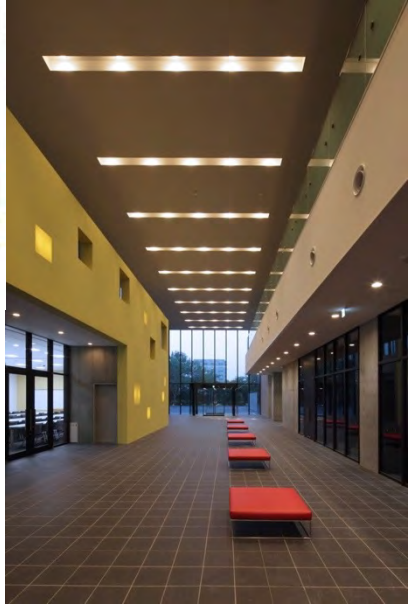
多様な人材の育成
地域や企業との体験共有
学生のアニキ的な運営者

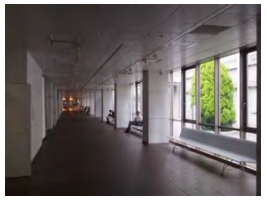
やりたいことを行うための、
やりたいことをみつけるための、
仲間をみつけるための、
アイデアを形にするための、
〇〇〇のための場が、
“Idea Stoa”です。

TOIC NAGOYA　Tokai Open Innovation Complex　2024

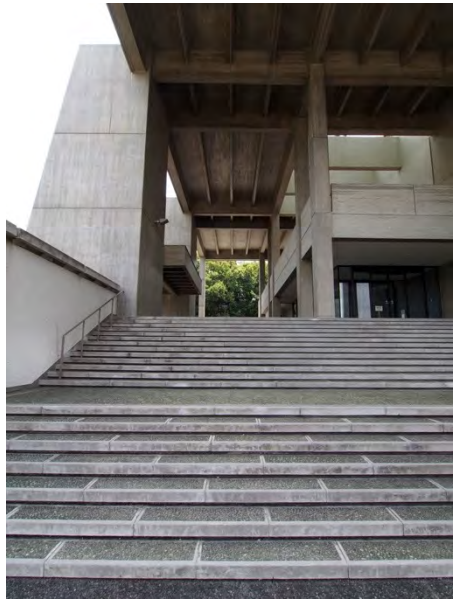


- 先端素材、カーボンニュートラル、DXを中心としたオープンイノベーションを推進する産学融合拠点
- 企業やベンチャー、行政など多様なステークホルダーとの新たな出会いを生み出す、スタートアップ創出拠点





パッサージュ（通り抜け空間）



ピロティ

デザイン・マネジメント

オープンスペースをどうつくるか

・活動の可視化

・交流の誘発

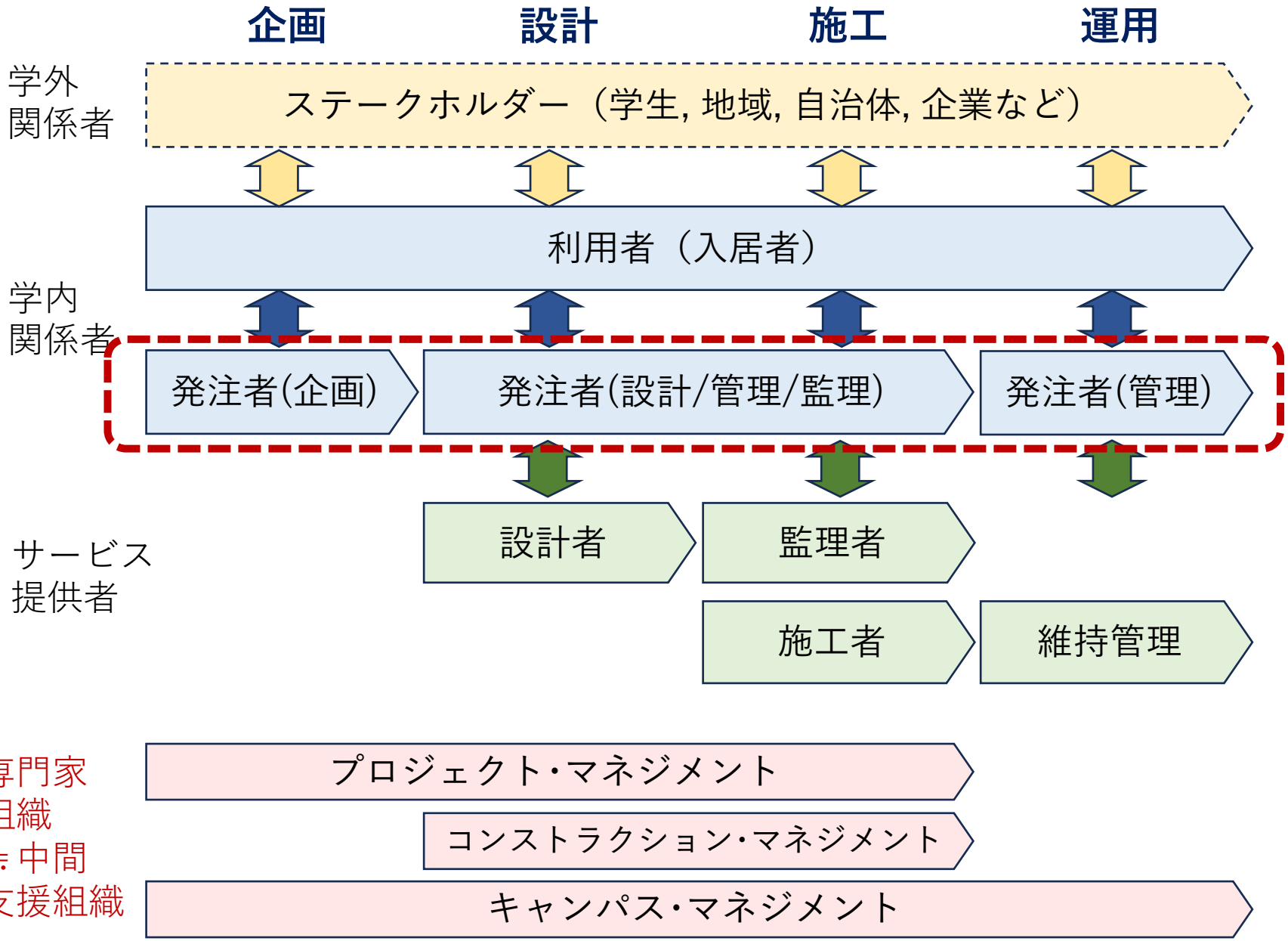
megaform

group form
（群造形）
→

広場

©太幡英亮

中間支援組織の役割



①発注者を代表(代理)してステークホルダーを繋ぎあるべき姿を追求する

②発注者・利用者をサポートし、設計者・施工者等との間を繋ぐ

③複雑なプロジェクトを遂行するための専門職

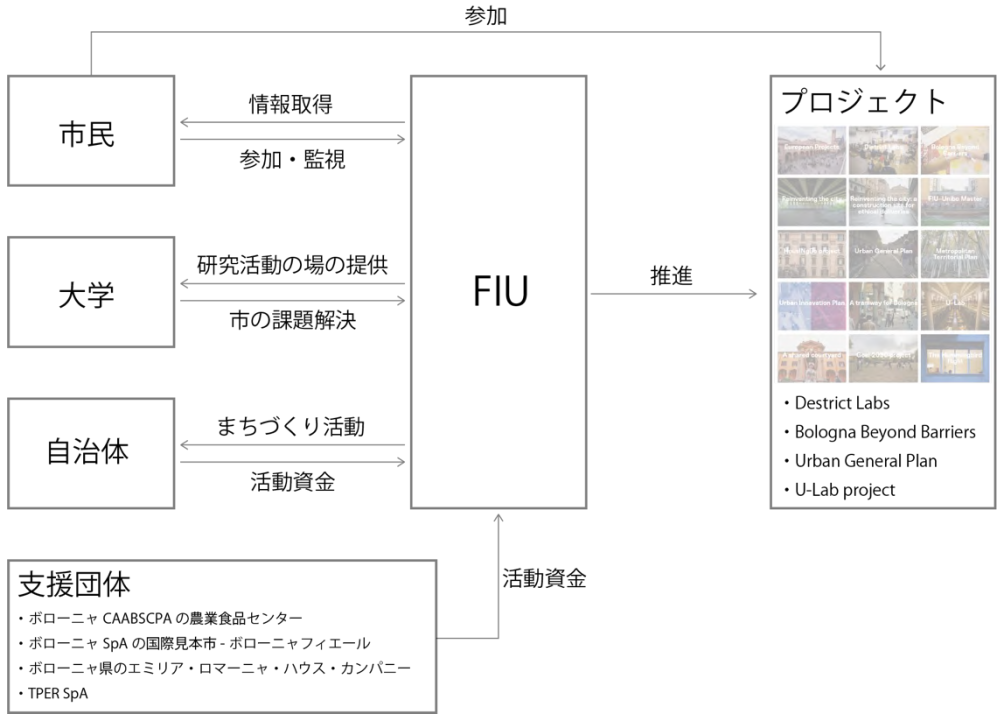
※つくるプロセスからつかうプロセスまで継続的な体制づくり

中間支援組織の重要性

URAの充実以上に大事な大学の戦略では？

e.g. ボローニャ大学　FIU

Fondazione per l'Innovazione Urbana



- ソフト・ハードが一体となった取組み
- 企画･整備から運用まで一貫した体制
- 企画・立案を担う人材の育成
- 雑業務で疲弊する大学教員･職員をサポートする以上の取組にする必要
- 研究を担う教員や施設系職員が、直接ステークフォルダーとの協働を行う非効率を打破
- 多様なステークホルダーの誰を重視するか、プロジェクトの目標によってあり方は多様

国内にも多くの好事例

- UDC＃（アーバンデザインセンター）
- 千葉大学墨田キャンパス ～UDCすみだ
- 広島大学 Town & Gown Office
- キャンパスとまち計画研究所

みんなでつくり、みんなでつかう

東海機構プラットフォーム

設計：小堀哲夫建築設計事務所

- 大学･地域･企業など多様な人と知が集い、将来を見据えた先進的で革新的な教育の共創拠点
- 地域/大学、地上/地下、屋内/屋外、理系/文系をつなぐハブとなる空間
- 東海国立大学機構を象徴する建築とランドスケープの創出

東海機構プラットフォーム棟コンテンツ企画者等大募集！！

東海機構プラットフォーム棟とは？

令和２年４月に設立した「東海国立大学機構」での様々な機能を集約した施設で、図書館東側に半地下構造で建設予定です。
（令和６年３月末完成予定）

活動内容

東海機構プラットフォーム棟内で展開するコンテンツの企画です。
大学に来たくなるコンテンツ、自分の成長を確認できるコンテンツなど、「学生目線」「教職員目線」といった様々な角度から、あなたの秘めた熱いアイデアをぶつけてください。

活動の目標

令和３年７月中旬頃までにコンテンツアイデアを企画し、７月末頃までに機構役員にプレゼンすることを目指します。
検討会には機構教職員も参加します。

募集の内容

２種類の応募区分からお選びいただき、令和３年４月●日までに別紙の応募用紙にご記入の上、以下連絡先までご提出ください。

【応募区分】
① アイデアのみ応募者
② 企画チーム参画者：募集人員（若干名）
（※②応募者はアイデアも併せて提案して下さい）

当選者には●月●日を目途に別途ご連絡いたします。

連絡先： 名古屋大学教育戦略部教育企画課(事務局)
E-mail： gak-reform@adm.nagoya-u.ac.jp

アイデア採用者、企画チーム参加者には謝礼をお渡しいたします！！

企画ワークショップ　～2020.10
コンテンツ企画チーム　～2021.07
設計ワークショップ　～2021.10

多様な部局、学生、地域、企業
多様なコンテンツ・空間を
どう運営するか

2023.04～
プラットフォーム運営準備室

Common Nexus　←旧名称（仮称）東海機構プラットフォーム

CMPで位置づけられたオープンスペース

ウォーカブル／グリーンインフラ

ランドスケープと一体となった建物低層部

開かれたキャンパスの象徴

Common Nexus　←旧名称（仮称）東海機構プラットフォーム

地域や企業を含む交流の拠点となるパブリックスペース

構成員の居場所となる多様な空間

新たな学びに対応した教育スペース

見せる･魅せる活動の場